

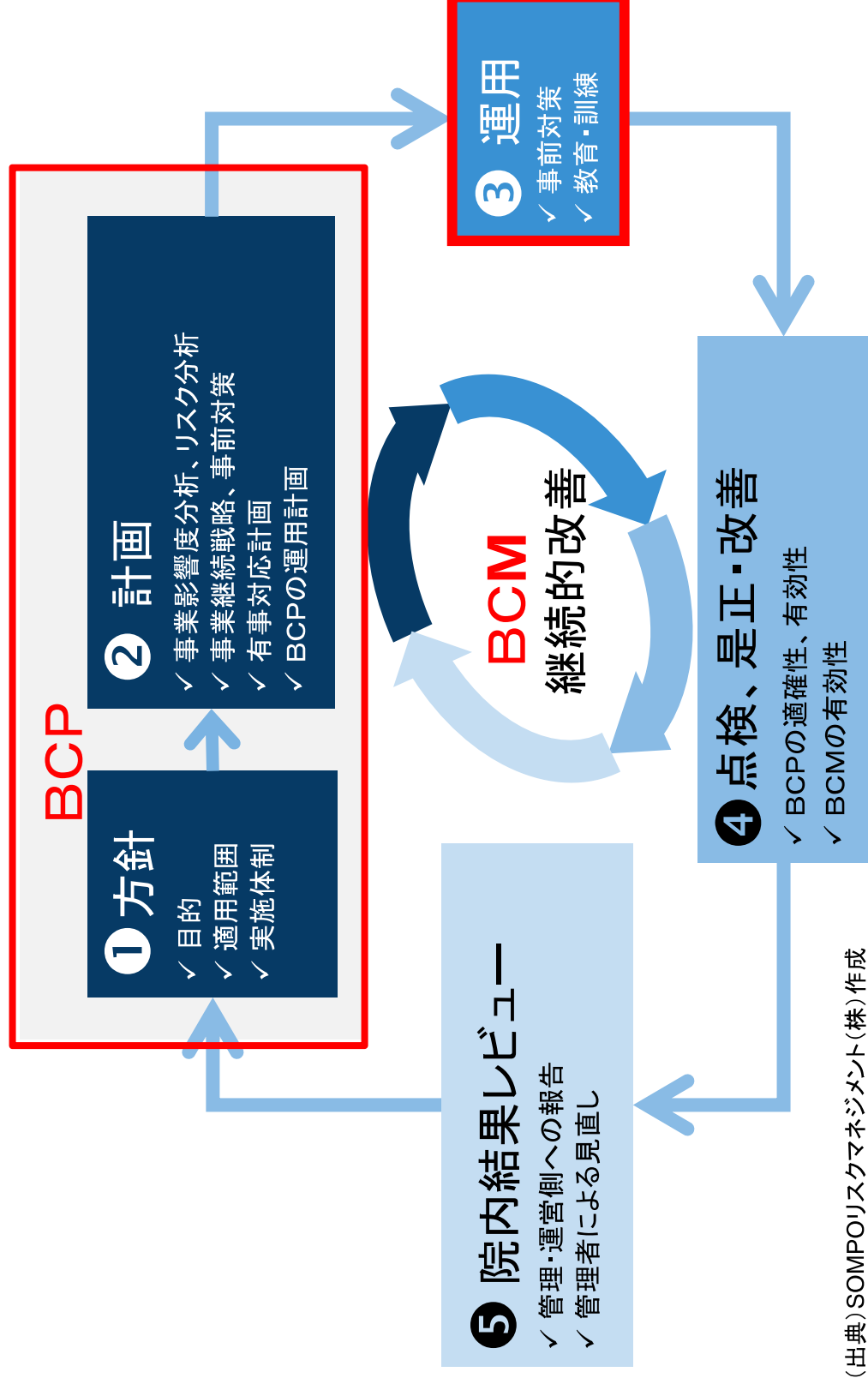
【訓練編】

事業継続計画(BCP)策定手順と
見直しのポイント②

【配布用】

BCPを「運用」する(1/2)

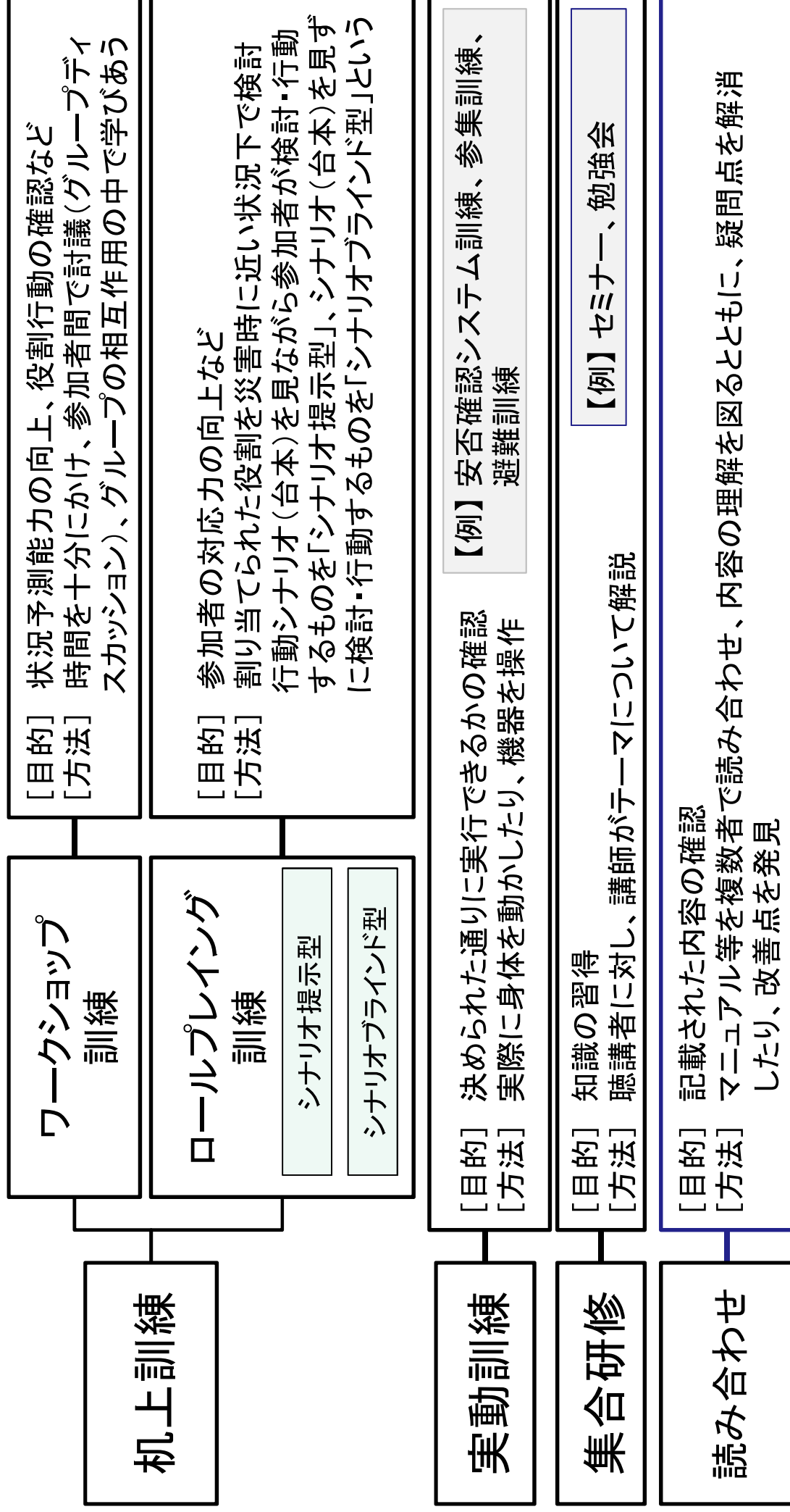
BCPの策定後は、事前対策や教育・訓練等を行い、PDCAサイクルを通して継続的に改善を行い、実効性の確保・維持・向上を図る必要がある(BCM:事業継続マネジメント)



(出典) SOMPOリスクマネジメント(株)作成

BCPを「運用」する(2/2)～「教育・訓練」の例～

その時々、目的や効果等に応じて手法を検討・選択し、BCPや災害対応マニュアルの周知、改善につなげる「教育・訓練」を実施する



机上訓練(ワークショップ訓練)の試行(1/2)

状況予測型図上訓練 ～机上訓練(ワークショップ訓練)の例～

おおまかな「想定」を前提に、時間軸上で自分の役割行動を考え、それを通して課題の発見と解決策の獲得を目的とする

STEP1

おおまかな「想定」をもとに、①状況の予測 ②あなたの対応 ③悩み・課題を書き出す

STEP2

書き出した内容が適切かどうか、どのような課題があり、どんな対策を講ずべきかを評価・検証する

期待される訓練効果

- 自らの知識・能力及び災害時業務への習熟度の客観的把握
- 自らの災害時役割行動の流れの把握と整理
- 個人・組織等の課題の把握及び解決策の獲得
- 組織用マニュアルの検証と修正 等

机上訓練(ワークショップ訓練)の試行(2/2)

ワークを2つ出題します。

1. 各ワークの設問に取り組みんでください(約5分)。

※ Word版の回答用紙(資料〇 訓練編ワーク)ファイルを開き、
記入してください。回答は、箇条書きで構いません。

2. 次に、時間が経過したら呼びかけます。回答が終了したら、皆様が
Word版の回答用紙に記入した回答を、チャットに貼り付けてください。

※ 皆様の回答を、講師が拝見し、解説やコメント等を致します。

※ 皆様も、他の研修参加医療機関の回答をご参考ください。

3. 講師による設問の解説、コメント等が終了しましたら、次の設問または
次のワークに取り組みんでいただきます。

地震発生直後

ワーク1

- 夕方15時、あなたが、あなただが、病棟の廊下を歩いていたところ、大きな地鳴りとともに、立っていられないほどの地震が数分続きました。

<発災から1時間>

- ① 院内は、どんな状況になっていますか？
思いつく限り、書きだしてください。

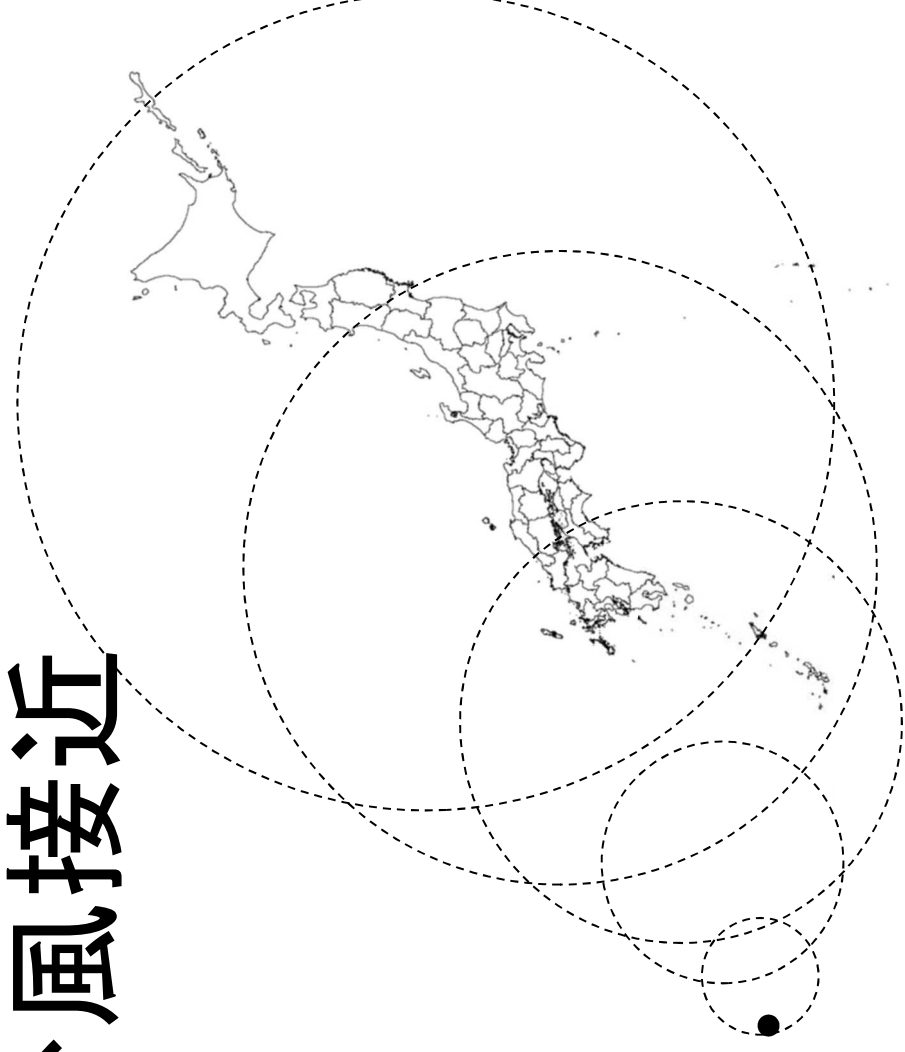
(例:職員、外来・入院患者、建物・資機材、ライフライン等の状況)

- ② あなたは、どのような意思決定、行動をしますか？

9月20日(木) 天気:晴れ 気温:28度 風速:1m/s

最悪の「状況」を想定して書き出してください。講師から新たな条件等を追加しません。なお、「あなた」に負傷はなかったものとします。

大型台風接近



ワーク2を始める前に

防災気象情報の見かた 警報級の可能性の活用方法の具体例

翌日早朝にかけて警報級の可能性[中]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで	朝～夜遅く 6-24				
大雨	18-6 [中]		-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	-	-	-	-	-
波浪	-	-	-	-	-	-



- 担当職員に対し、退庁後の自宅待機を促したため、警報発表時に体制を迅速に整えることができた。
- 勤務時間内に庁内放送を実施し、夜間でもすぐに職員が参集できるようにした。
- 気象情報を収集していたところで警報が発表されたので、円滑に対応できた。
- 夜間の登庁方法を考えておく等、警報発表に備えることができた。

次の日に警報級の可能性[高]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで	朝～夜遅く 6-24				
大雨	-	[高]	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	[高]	-	-	-	-
波浪	-	[高]	-	-	-	-



- 避難準備・高齢者等避難開始を発令するタイミングの目安になった。
- 警報発表前に避難場所開設の準備を行うことができた。
- 台風接近時の離島への職員派遣の判断の参考になった。
- 台風接近時に、防災行政無線や防災メールで特に注意すべき時間帯を住民に周知する参考になった。
- 資機材の事前準備や確認のきっかけになった。
- 行事、イベント中止の判断の参考になった。
- 小中学校の休校や公共施設の閉鎖などの判断の参考になった。

[高]のときは、気象警報等で詳細な時間帯などを確認する。



警報級の可能性

【高】警報発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況。

【中】警報を発表するような現象発生のある状況。

ワーク2

- 大型で非常に強い台風第10号により、本県では**明日9日の午後から強風域圏内に入り、警報級の大雨**が予想されます。
- 土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に**注意・警戒**してください。
- 前線の動きが活発化し、本県でも雨が降り始めています。今後、気象台の発表する**注意報等に留意**してください。今後の推移の予測は以下のとおり。

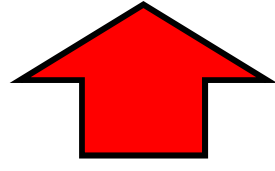
本 県	今後の推移(■ 警報級 ■ 注意報級)											
	8日						9日					
発表中の 警報・注意報等の種別	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24
大雨	0	0	5	5	5	5	15	15	30	60	80	80
(浸水害)												
(土砂災害)												

- **今日は8日です。あなたの医療機関は、翌日9日の警報級の大雨に備えて何をしますか？**

訓練結果の振り返りを必ず行うこと

評価・検証の観点の例

- (状況の予測) 発災前後の局面(フェーズ)や起こりうる被害状況を適切に理解していたか
- (あなたの対応) 自らに期待される役割や、災害対応マニュアル等にもとづいた行動を理解していたか
- 適切な状況予測や対応が訓練内で見られなかった場合、その理由や背景は何か、研修参加者の懸念は何か 等



事業継続に係る課題や、講ずべき対策(案)を
とりまとめ、「点検、是正、改善」「レビュー」の
対象にする

まとめ

本日の研修でおこなったこと

- 「BCPチェックリスト」を活用し、事業継続計画(BCP)文書のない医療機関は、その骨格を策定した。BCPがある医療機関は抜け漏れがないか振り返った。
- 地震想定BCPと水害想定BCPの考え方、及びその策定の進め方を解説した。
- 効果的・効率的なBCPの運用(事業継続マネジメント、PDCA)に資するように、机上訓練のやり方と、BCP文書の活用の仕方を解説した。

貴院に戻ったら、何をしますか？

- ・ 理念や目的等をふまえて、基本方針を作成する(トップの言葉、事業継続のストーリー等を、組織内に周知、浸透させる)
- ・ 被害想定を実施する(総務部等、施設管理を担う部署を中心に、医療機関の実態を調査する)
- ・ 行動計画を作成する(非常時優先業務を選び、目標時間を設定する)
- ・ 対策を練る(ライン等の計画的な補強、災害マニュアルの作成等の対策を進める)
- ・ PDCAを根付かせる(定期的な訓練等を行い、課題出しと対策の実施をすすめる)

まとめ

BCPは、単なる文書づくりではありません。その大きな目的は、体制をつくること、災害対応能力をより高めることにあります。

「想定される被害」や、医療機関としての「あるべき姿」、必要な「対策」を検討し、訓練や研修等を通じて、より実効性の高い事業継続体制づくりに取り組んでいきましょう。

